

平成29年度 奨学後援会総会資料

# 学 校 の 概 況

平成29年5月21日

広島商船高等専門学校

## 目 次

学校の現況（校長 辻 啓介）	1
学生教育（教務主事 舟木 弥夫）	2
1. カリキュラムの改定	
2. 授業時間の変更	
3. 留年・退学を出さないための対策	
学生支援（学生主事 上杉 鉛一）	3
1. 就学支援	
2. 学生会関係活動支援	
3. 交通安全指導	
4. 規範意識を高める支援	
学寮生活（寮務主事 岡山 正人）	4
1. 寮生数と再入寮制度について	
2. 学習支援について	
3. 寮生の現状	
4. 今後の課題	
広報活動（広報主事 澤田 大吾）	5
1. 平成28年度の主な取り組み	
2. 入学生の状況，情報の共有	
3. 今年度の取組	
進路指導—商船学科—（商船学科就職担当 小林 豪，瀧口 三千弘）	6
1. 進路の概況	
2. 近年の求人・求職傾向	
3. 進路指導	
進路指導—電子制御工学科—（電子制御工学科 就職担当 吉田 哲哉）	7
1. 進路の概況	
2. 進路状況	
進路指導—流通情報工学科—（流通情報工学科進路指導担当 田上 敦士）	8
1. 進路指導（学科の取り組み）	
2. 進路の概況	

## 学校の現況

校長 辻 啓介

保護者の皆様には、平素より本校の教育活動にご理解とご協力を頂き、厚く御礼を申し上げます。4月に村上前校長の後を継ぎ本校に来て1年が過ぎようとしております。ようやく大崎上島での生活にも慣れ、私の心で中では「大きい」から「広い」へ置き換えが完成しつつあるかなと感じております。

この1年、学生たちの嬉しい活躍がたくさんあり、課外活動が大好きなルーキー校長の私を喜ばしてくれました。運動部が各種大会で活躍している中、昨年の準優勝の悔しさを晴らして全国高専体育大会における卓球部の優勝を含めて、剣道部、陸上部、水泳部が参加し、卓球女子シングルス準優勝、陸上競技女子やり投げ決勝3位の成績は、今後を期待させるものです。他のクラブも各種大会で活躍しています。また、アイデア対決高専ロボコン 2016 中国地区には2チームが出場し、Aチームは準優勝、Bチームは特別賞（株式会社安川電機）を受賞することができました。残念ながら、あと一步で全国大会参加は逃しなしたが、「広島商船ここにあり」を十分に示してくれました。悔しさをばねに来年に向けての努力に期待します。

さらに「2016 キャンパスベンチャーグランプリ中国大会」では、流通情報工学科5年2名が、卒業研究において開発中の「★さめぼ★ -LD 向け記憶補助システム-」がテクノロジー部門優秀賞受賞しました。これは、学習障害（LD）児向けのタブレット用アプリとそのアプリを利用したソリューションを提案したものです。主催の日刊工業新聞に大きく取り上げられました。

大崎上島町商工会のプロジェクトにおいて大崎海星高校との合同プロジェクトが始動しました。「島の仕事図鑑」の作成を大崎海星高校の生徒と一緒にこなっています。高校と高専の学校間連携の新しい形を模索しています。このような地域との連携は、地域に根ざした高専となるため大事なことです。その他の分野においても、地域との連携を広げたいと思います。

現在の高専教育は、知識・技術の確実な修得に重点を置いた教育から、社会課題の解決能力の育成に重点を置く教育へ変わろうとしています。そのため、知識・経験だけでなく、全く新たな視点から何かを作り出す発想能力が必要となります。このような課題解決能力を育成するために自ら学ぶの学習能力が求められています。学生はいろいろな能力を身に付ける努力を忘れないようにすることを望んでおります。

その他本校の持つ課題は多くありますが、社会的人口減少の中、我国の将来を担う学生を育て、日本の未来社会ーグローバル化と地方創生ーに対応できる課題解決能力を有する人材育成に努めています。本校としてまだ十分ではありませんが、より高い成果が得られるように努力しております。学生が立派に成長できますようご協力とご支援を重ねてお願い申し上げます。

# 学生教育

教務主事 舟木 弥夫

## 1. カリキュラムの改定

全国立高専の学生が到達すべき最低限の目標および、より高度な社会的要請に応えて高専教育の一層の高度化を図るための指針を提示することを意図して策定された「モデルコアカリキュラム」に対応するとともに、学生の主体的な学習時間の増加及びアクティブ・ラーニングの導入に配慮した新カリキュラムを実施しました。

学修単位に加えて資格検定による単位認定、インターンシップ・地域貢献等の特別学修単位を導入することにより、実験実習・卒業研究・主体的な学習時間の確保が十分に可能なカリキュラムとなっています。

## 2. 授業時間の変更

協働授業をはじめとする高専間連携を強化するため、中国地区8高専の授業時間を統一しました。昨年度まで、1回の授業を50分で実施していましたが、今年度からは2回分の授業を連続とし90分で実施しています。

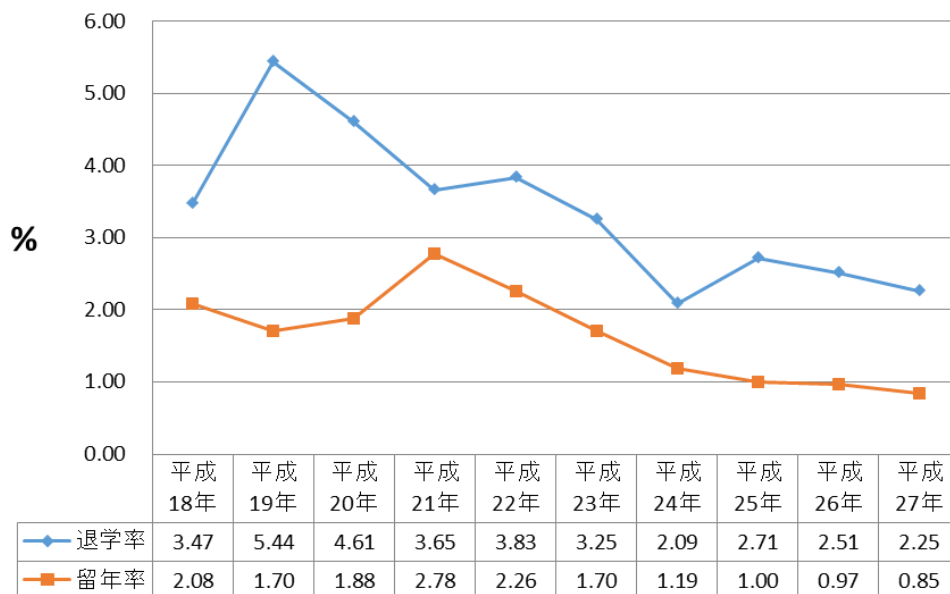
## 3. 留年・退学を出さないための対策

成績不振者対策（補習・再試験・課題等）

遅刻・欠席対策（担任・学生指導・寮・学生支援室の連携）

学内研修会の実施・授業評価アンケートの活用

### 留年率・退学率



全国平均  
(H27)  
退学 2.4%  
留年 4.2%

H28年度は退学者・留年者合わせて15名程度（約2.1%）

# 学生支援

学生主事 上杉 鉛一

## 1. 就学支援

本校では、入学金や授業料の免除、各種奨学金の案内や手続き等について、各教室や1階エレベータ横の掲示板に貼り出すとともに電子掲示板やHPで学生たちに案内しています。申請を検討されているご家庭は、学生を通じ、学生係で必要な書類等を受け取り、記入の上、期限内に提出するようにお願いいたします。（学生係は0846-67-3023です）

なお、1年生から3年生までの学生に関しては就学支援金制度により授業料の支援を行っており、4年生以上の学生には授業料免除制度により2016年度の前期分授業料は全額免除40名、半額免除9名、後期分授業料は全額免除35名、半額免除8名の就学支援を行っています。

## 2. 学生会関係活動支援

学生たちの自治組織として、学生会があります。会長をはじめとする役員を中心に学校周りの掃除などのボランティアや商船祭などの学校行事、課外活動の支援などに取り組んでいます。学生会の活動やクラスマッチなどの行事、商船祭の内容などを学生会新聞としてまとめ、各クラスや校内の掲示板に隔週水曜日に掲示するようにしています。

学生会の最大の行事である商船祭には、一般の来場者も楽しめる教室でのイベントや展示を増やし、2016年度は外部からのゲストを2組招き、ステージで演奏等を披露していただき、来客者や学生たちに喜んでもらえ、盛況となりました。

学生たちの心身の健全な発達のためにクラブ・同好会が体育系に17、文化系に11あり、それぞれに顧問を配置し、放課後を中心に活動しています。昨年度の予算、各クラブからの要求、部員数、活動状況などを考慮して学生主事補の指導の下、学生会役員がまとめ、予算案をたてています。

## 3. 交通安全指導

登校の際には、学生たちの安全を守るため、また地域からの信頼を得るために、教員が通学路に立ち交通安全指導をしています。今年度はイヤホンなどで耳をふさいで自転車に乗ることや一旦停止について注意してきました。これまで指導してきました並列運転や二人乗り、傘さし運転をしないことなどの交通規則を守り、事故に遭わないように指導しています。自転車事故は昨年度の5件から2件に減少しましたが、うち1件は寮からパルディに向かう右側通行による事故です。来年度も警察と連携しながら、交通安全に取り組んでいきます。

## 4. 規範意識を高める支援

本校の教育目標のAは「豊かな心、生きる力、規範意識の育成」です。具体的には「安心・安全」「思いやり」「ルールを守る」ことであると指導しています。自分を大切に、他人を大切にすることを指導しています。また「人は見た目が8割」とも言います。服装や身なりを見て、その人の中身を考える人は多いものです。本校の学生が一人でもシャツを出したり、ネクタイを緩める等のだらしない服装をしたり、髪を染めたり、ピアスをするなどの格好をすると、「広島商船の学生は」という風に、全学生を否定するような声を聞くことにもつながります。多くの学生はこのような服装や格好はしていませんが、一部の学生のために全員が悪く見られることがあるのが実情です。一人一人が広島商船の代表であることを自覚して行動するように、ご家庭でもご指導をお願いします。

2016年度前期は停学以上の指導を受けた学生が前年度に比べて激増しました。（2013年度39名、2014年度21名、2015年度9名、2016年前期36名）しかし、後期は0名と落ち着きを取り戻しました。今後も保護者の皆様のご協力を得て、全教職員が学生指導に尽力していきます。

# 学寮生活

寮務主事 岡山 正人

## 1. 寮生数と再入寮制度について

新寮生、男子 108 名、女子 14 名の計 122 名の入寮にともなって、今年度のスタート時点にける寮生数は男子 421 名、女子 62 名と、寮の実質的な定員を上回る 483 名となりました。このため、談話室の 2 部屋を居室として利用するなどの対応をとりました。こうした状況のため、洗濯室などの設備を含め、現在施設、設備とも満杯状態になっています。

このような寮生の増加にともない再入寮が不許可となる学生が増加しています。今年度は男子寮生の 4 年生から 15 名、3 年生から 3 名、計 18 名の、女子寮生からも 4 年生 2 名の再入寮不許可者を出さざるを得ませんでした。なお、女子寮は少しでも再入寮不許可者を出さないようにするため、ひとつの部屋に別の学年の学生が居住するようになることを学生にも理解していただきました。

これらの対応により、新年度の新入寮生のために男子 108 人、女子 20 人分の居室を確保しています。

こうした傾向は今後さらに続くと思われ、再入寮が不許可となる学生はさらに増加するものと思われまます。

## 2. 学習支援について

### (1) 成績不振者の図書室での自習

近年実施している自習支援を今年度も行いました。対象は担任の先生から指名された 1 年生と 2 年生で、週 4 日（月～木）、1 時間半（8 時～9 時半）宿直教員の監督の下、図書室で自習させています。参加した学生は 16 名から 22 名でした。今年度の寮生の留年は 4 年生が 2 名、3 年生、2 年生が各 1 名でしたが、このうち自習参加者からは 2 年生の 1 名が含まれています。

### (2) 英会話教室(English Dojo)

昨年度から行っている英会話教室を、週一度希望者を対象に実施しており、好評を得ています。

## 3. 寮生の現状

### (1) 規則違反

今年度は 25 名を超す退寮者を出してしまいました。高学年では「飲酒」、低学年では「窃盗」「喫煙」などが主な理由となっています。これらの違反はすべて前期に起きたもので、後期には退寮処分となる事案は 1 件もありませんでしたが、今後も引き続ききめ細やかな指導が必要と考えています。

また、今年度は女子寮生に「門限違反」「外泊カード忘れ」が目立ちました。本人はもちろんですが、保護者の方にもご協力をいただきながら指導を進めております。

### (2) その他

1 月になり 2 年生、1 年生を中心にインフルエンザにかかり、自宅に帰省してもらう学生が続発しました。病院への搬送や保護者への説明等、寮への負担は大変なものがありました。インフルエンザなどの感染症への対応では、保護者の方のご協力が不可欠ですので今後ともご理解を賜りますようお願い申し上げます。

## 4. 今後の課題

日頃の寮生指導に加えて、今後の課題としては以下の点を中心に検討していく必要があると考えています。

- ①老朽化し、不足気味の設備・施設について
- ②寮事務室の負担軽減について
- ③入寮希望者が定員を超えた場合の対策

## 広報活動

広報主事 澤田 大吾

### 1. 平成 28 年度の主な取組

1 年間を通じて次のような主要な活動を行いました。

- ・ 4 月 大崎上島中学校の宿泊研修（本校若潮会館に宿泊）に協力
- ・ 6 月 進路説明会（福山で開催、約 10 校参加）を開催
- ・ 7 月 5 商船高専合同説明会（広島、横浜、神戸）に参加
- ・ 8 月 公開講座、全教員による中学校訪問。  
オープンスクール（第 1 回目）を 2 日間実施  
県内の中学校（235 校）を全教員による訪問
- ・ 9 月 県内中学校からの要望による出前授業や進路説明  
他高専との合同進学説明会を実施（東京・姫路・福岡）
- ・ 10 月 オープンスクール（第 2 回） 帆船フェスタ 2016（広島）に参加
- ・ 進学塾（田中学習会・明光義塾・ノーベル学習館など）の進学説明会参加

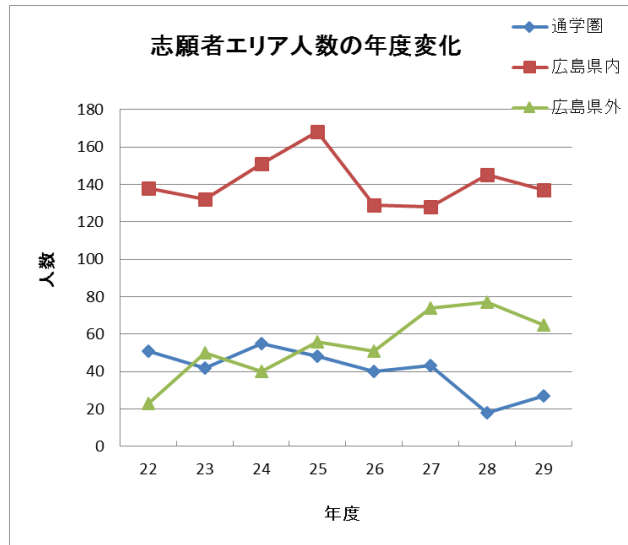
### 2. 入学生の状況、情報の共有

今年の志願者は 229 名(193 名)になり、昨年より微減となりました。今年度も 8 月のオープンスクールは混乱を避けるため 2 日間実施しました。1 回の実施としては最高数に近い来校者がありましたが、志願者激増には至りませんでした。平成 28 年度は夏のオープンスクールは 2 日間、10 月は 1 日間とする予定です。

最近の傾向としましては、商船学科の志願者増は全国 5 商船とも上がっていますが、非商船系は不安定な志願倍率になっています。これら非商船系の学科は独自の特徴を生かしレベルアップを目標にしていきます。

しかし、本当の広報とは「本校の学生が社会に役立つ人材として成長する」という実績を築くことが重要であると考えられます。学校全体が学生を支援できる体制が必要です。

また、今年の広報活動では学生主体の広報活動を全面に打ち出して行く予定です。2 度のオープンスクールでは本校の学生を生徒や保護者に見ていただくことにより、志願者増につながるような魅力ある学校にしていくことを考えています。



### 3. 今年度の取組

- (1) 中学校（中学校教諭）との連携強化
- (2) 教育コーディネータの配置
- (3) 中学校の教育研修会への本校教員の参加
- (4) 県外での PR 活動強化

## 進路指導 一商船学科一

商船学科 就職担当 小林 豪、瀧口 三千弘

### 1. 進路の概況

図1に商船学科の過去5年間（平成24年度～平成28年度）の進路状況を示します。全体の傾向として、航海コース・機関コースともに平均すると約6割が海上職、2割が陸上職、残り2割が進学といった状況です。

平成29年9月に卒業予定学生の進路状況（内定状況）を表1に示します。今年度は、約7割の学生が船員としての海上就職予定となりました。外航船員として内定を頂いている学生は7名です。

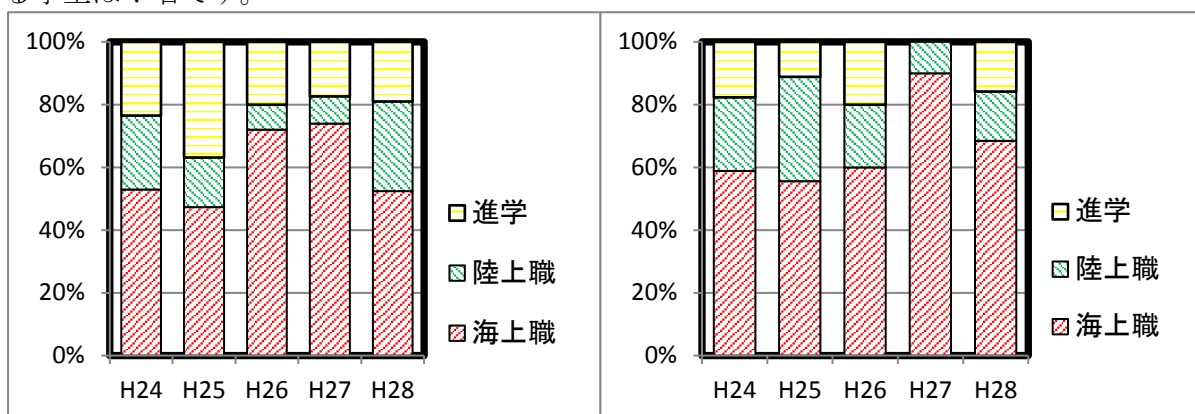


図1 過去5年間の進路状況（左：航海コース・右：機関コース）

表1 平成29年9月卒業予定学生の進路状況

航海コース（26名）	海上：18名	陸上：3名	進学：5名
機関コース（22名）	海上：14名	陸上：3名	進学：5名
商船学科（48名）	海上：67%	陸上：12%	進学：21%

### 2. 近年の求人・求職傾向

近年の求人は、外航船社ではもちろんですが内航船社においても2級海技士の筆記試験合格を入社条件としている会社も多いため、よりレベルの高い資質が求められています。

海上職・陸上職ともに、就職に際しては基礎基本の知識を有していることは当然のことながら、社会人としての責任感・協調性・社会性などのコミュニケーション能力が強く求められる傾向にあります。

海上職を目指す学生の場合、外航を志望する学生は毎年一定数おりますが、全体的には内航のような数ヶ月から数週間の短期航海の船員を希望する傾向が見られます。

### 3. 進路指導

(1)低学年に対して：学科長や就職担当者がホームルームの時間を利用して就職や進学を含めた進路についての指導（主として動機付け）を行っています。不定期ではありますが、造船所見学や本校練習船の寄港地での会社見学・港湾施設見学等も行い、船及び海事関連の仕事に対する理解を深める取組みも行っています。

(2)高学年に対して：商船学科では担任と就職担当を中心に、本人の希望・適性・成績等を踏まえ、希望調査・個人面談等を行いながら進路を決定しています。平成27年度より、2年生終了時の春休みに1カ月、4年生後期に5カ月、海技教育機構（航海訓練所）での練習船実習が行われています。このことにより、新5年生は4月に帰校後すぐに就職活動が開始されます。4・5月には、多くの企業に来校して頂き、会社説明会を頻繁に実施し、学生の進路選択へ役立てています。



## 進路指導－電子制御工学科－

電子制御工学科 就職担当 吉田 哲哉

### 1. 進路の概況

今年度の求人状況は、求人企業数は412社、述べ求人数は455人と非常に恵まれた状況でした。今年度も学生達の努力の結果、卒業生39名のうち7名が進学し、32名が就職します。就職先の職種としては、エンジニアとして機械、電気、情報、制御等の専門的な技術の仕事に携わります。

### 2. 進路状況

#### (1) 就職

卒業生の就職先の業種は56%が製造業で、その職種は工場の生産ラインの設計や保守・管理などになります。また、約34%がサービス業で、エレベータやエスカレータ、空調設備、OA機器などのメンテナンスを行います。運輸・通信分野も約3%で、通信部門では携帯電話やネットワーク関連の仕事を行います。今年度は、25%の卒業生が県内の企業に就職し、中四国地区の企業に就職する学生を含めると38%の学生が、中四国地区で活躍します。表に卒業生の進路先を示しています。

#### (2) 進学

大学等への進学者の割合は18%で、進学先としては、豊橋・長岡の両技術科学大学です。本校の専攻科へ進学する学生もいます。

平成28年度卒業生の進路先(電子制御工学科)(H29.3.1現在)

	内定進路先	人数	内定進路先	人数
就職先	CTC システムマネジメント	1	今治造船	1
	NTT-ME	1	北川鉄工所	1
	アズビル	1	三建産業	1
	アルメックス	1	大興グループ	1
	イオンディライト	1	中国電力	2
	イクス	1	東京エレクトロンFE	1
	エイジェック	1	東邦亜鉛契島製錬所	1
	エクセディ	1	西日本オフィスメーション	1
	ダイキン工業	1	日本オーチス・エレベータ	1
	トレックスセミコンダクター	1	日立ビルシステム	2
	ヒロタニ	1	古川製作所	1
	ユニチカ	1	前川製作所	2
	旭化成	1	三浦工業	1
	出光興産	1	三菱電機ビルテクノサービス	1
	今仙電機製作所	1	矢崎総業	1
進学先	豊橋技術科学大学	3	広島商船高等専門学校専攻科	1
	長岡技術科学大学	2		

# 進路指導－流通情報工学科－

流通情報工学科 進路指導担当 田上 敦士

## 1. 進路指導（学科の取り組み）

5年学級担任が進路指導を担当し、学科全体で連携を取りながら指導にあたっています。

近年の採用試験で特筆すべき点は、基礎学力や一般常識もさることながら、個人の性格（ストレス耐性やバイタリティ）を従来にも増して注視しています。そのため、企業と学生とのミスマッチが起こらないよう個別対応に相当の時間を割いています。

また、教員が企業の人事担当者として、通年にわたり企業訪問などを通して情報交換を行い、連絡を密にすることにより、信頼関係の構築に努めています。

特に、平成25年度の学生よりコース制（流通・ビジネスコース、情報コース）を導入しているため、それぞれのコースの専門性に応じた企業との連携に努めています。また、本年度の学生及び保護者の地元企業への就職ニーズはあまり高くはありませんが、地元志向のある学生を地元で定着（地域貢献）させるため、また他地域で経験をつんだ学生を将来地元に戻りやすくするための2つの観点から地元企業との交流も深めています。

地元志向及び業種の多様性から、他学科に比べて一般応募を選択する学生もいます。このため、就業意識を高める試みとして、1) 低学年時からの就職講義の導入、2) 4年生全員のインターンシップ参加、3) OB・OGによる講演会、4) 職業適性試験・基礎能力試験の実施などの多岐に渡る就職支援プログラムを実施しています。

## 2. 進路の概況

平成28年度の卒業生は、37名（男子21名、女子16名）です。この内、就職希望者は29名、進学希望者は8名となっています。

就職先企業の業種の内訳については、図1に示すように、物流業が39%、情報通信業が36%、そして卸売小売業、サービス業、製造業、医療・福祉が続きます。就職後の勤務地については、図2に示すように、広島県内への就職が増えています。その他の地域には、東京都、関西圏などがあります。表1に主な就職先企業名を示します。

本年度は必ずしも地域志向が強いわけではありませんでしたが、広島県内での就職が多く、また、東京圏などに本社が立地する企業でも、最初の数年の研修終了後には、広島県を中心とした中国地方などの西日本勤務が想定されている場合が増えています。

進学者の内訳は長岡技術科学大学、神戸大学海事科学部、広島商船専攻科産業システム工学専攻 などです。

図1 業種別就職先

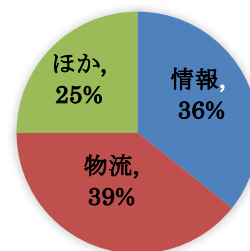
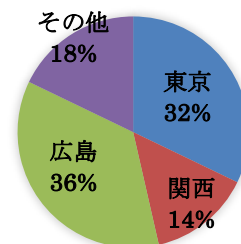


図2 地域別就職先



情報系	物流系	その他
富士通(株)	日立物流(株)	コーセー化粧品販売(株)
(株)富士通エフサス	山九(株)	社会福祉法人 東野会
富士ソフト	トナミ運輸(株)	(株)レニアス
テクノプロ	(株)ティーユーロジネット	KM(株)
(株)日本テクシード	シモハナ物流(株)	(株)ダイキン
DAC システムズ	(株)川崎陸送	豊国工業株
ハイマックス(株)	(株)ムロオ	(有)新垣商店
KDDI エンジニアリング(株)	(株)鈴鹿組	スズキ自販広島(株)
		(株)セトウチ